

豊橋市民俗資料収蔵室について

収蔵室本棟と西棟は豊橋市内に残る唯一の木造校舎を利用。本校舎（本棟）は昭和19年、西棟は昭和29年に建築。市立多米小学校として昭和51年まで使用された。

建物は在来軸組工法だが現在の建築基準法（昭和25年）が施行される前の基準となり、旧教室の広さは昭和18年の（臨時日本標準規格）国民学校建築に示された教室の広さと近似している。また、資材調達に難しかった戦時下であって工夫された代用品の痕跡が見えるが、転用材は使用されていない。

教室の構造は在来工法、木造平屋建小屋組キングポスト造。方杖、壁は梁間方向土壁塗り。屋根は棧瓦葺（日本瓦）。外壁は鋳下見（よろいしたみ）板張で当時の面影をよく残している。

敷地の東側に二宮金次郎の像がある。当時東京の日本硬化石美術工業所に発注、昭和19年1月、本校舎竣工前に除幕式を行っている。

建物は平成28年2月、国登録有形文化財に登録された。

現在、「ふるため（古多米）」の愛称で親しまれている。

〈施設〉

敷地＝9032㎡

本棟＝618㎡

西棟＝306㎡

〈資料数〉

登録総数＝約7500点

（内展示数＝約1000点）



利用案内

〈開館日時〉

毎週土曜日・日曜日・祝日 ※平日（月～金）と年末年始は休館
午前9時30分～午後4時00分 ※入場無料



- ・市電「豊橋駅前」より「赤岩口」下車 徒歩15分
- ・豊鉄バス 飯村岩崎線（多米東町経由）
「民俗資料収蔵室前」下車 徒歩 1分
- ・駐車場あり

連絡・問い合わせ

豊橋市民俗資料収蔵室

〒440-0021 愛知県豊橋市多米町字滝の谷34-1-1

☎0532-63-2026（民俗資料収蔵室）

☎0532-51-2882（豊橋市美術館）



国登録有形文化財

豊橋市民俗資料収蔵室



検尺機（生糸の長さや重さを測って織度（太さ）を測定するための道具）

TOYOHASHI FOLK HERITAGE MUSEUM

民俗資料収蔵室・各部屋の紹介



農業・林業用具展示室

稲作に関係した道具や、いろいろなこぎりなど田や畑、山林で使ったものを展示。牛や馬が使ったものもあります。



漁業用具展示室

牟呂、前芝周辺は海苔(のり)、うなぎの養殖が盛んでした。漁師さんたちの漁具を見てください。



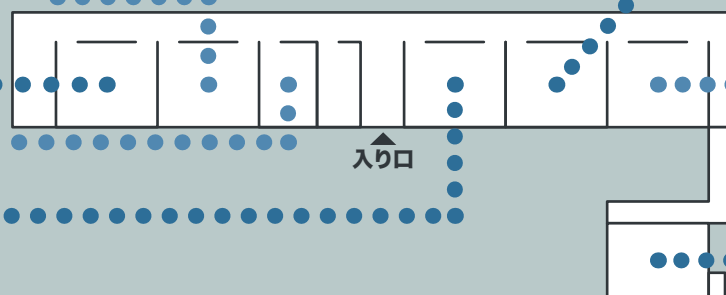
生活用具展示室

明治、大正、昭和の人々がどんな暮らしをしていたか、想像してみてください。昭和30年代の茶の間も再現しています。



昔の教室

木の机、いす、教壇、教卓、校内スピーカー、オルガン、黒板…子どもたちの声が聞こえてきそうです。ここは数多くの映画やドラマ、CM撮影に使われた場所です。



昔をふりかえると未来がみえてくる



昭和19年に建てられた校舎は板張りの廊下。木の窓や戸は人が通ったり風が吹くとガタガタとなりました。ガラスの「タメ」のキズは何か?



製糸用具展示室

明治～昭和30年代まで、豊橋は「糸の町」と呼ばれていました。製糸業の貴重な資料や糸くりの道具が並んでいます。



養蚕用具展示室

絹糸をつくる原料は蚕(かいこ)の繭(まゆ)です。かいこを飼ってまゆをとる仕事を養蚕(ようさん)といいます。



給食室(二宮金次郎像のとなり)

昭和30～40年代は学校の中に給食室がありました。毎日大きなべでおかずをつくり、おいしそうなおいが校内に広がりました。